

# (テーマ) 「介護と障害 連携構築すごろく」



## スタート

1

障害の制度ってわからない

たとえば65歳問題って昔から課題だったと  
思い出す  
貴重なつぶやきをキャッチ  
一コマすすむ

2

介護障害ごちゃ混ぜで勉強会しよう  
年度末近くにもかかわらずお金の  
かかるイベントを思いついてしまう  
¥13800獲得!

3

近所の居宅主マネさん・障害の相談員さんと協議を重ねる  
障害分野の大変さを知り少しショック  
一つ戻る

4

祝第1回勉強会開催!  
居宅 80人  
障害 2人  
参加者アンケートから  
元気をもらい  
3コマすすむ

障害と介護って別世界よね

6

障害と介護制度の違いってやっぱり  
分かりづらい  
障害事業所・居宅からそれぞれの制度の  
特色を説明してもらい  
楽しむ  
一回休み

8050あるあるケースで事例検討しよう  
居宅主マネさんにあるある事例  
つくってもらい  
楽しむ  
一回休み

7

次回のテーマ何にしよう?  
たとえば8050多いよね  
日々の業務からのひらめき  
¥1000獲得!

5

反省会実施周知足りない?  
謎の3か月ルール??  
次年度事業計画のネタができる  
一コマすすむ

勉強会后、参加した障害事業所へ居宅から相談殺到!  
顔は確実につながった  
相談員さん困難ケース多数来て  
苦笑い  
一回お休み

「東区の障害事業所へも声掛けし  
ちゃいましたから」  
前回の反省を踏まえ、周知を  
拡大  
一コマすすむ

じゃあ東区包括と居宅にも案内  
出しちゃえ  
実は北と東意外と仲良し  
三コマすすむ

区民センターの大ホール借り  
ちゃえ  
またまた年度末に追加予算計上  
¥13800獲得!

目標150人!  
机セッティングは面倒なので  
椅子だけ!  
一コマすすむ

## ゴール

8

評価: 第二回目は開催に至らなかったが、検討する過程でコアメンの中だけでもお互いの強みや課題を十分に把握することができた。  
改善点: 早めの周知とお互いの困りごと(8050等)に焦点を当てた内容の選定を実施することで、多数の人数が見込め、連携がより広がる

コロナで中止  
ふりだしにもどる

7

居宅100名  
障害20名  
障害分野からも多数申し込み  
150人を超える勢い  
一コマすすむ

2週間前の時点で120名申し込み  
予想以上のハイペース  
期待が高まる  
¥5000獲得!

いよいよ準備も大詰め  
毎週夜に会議でやや疲労蓄積  
一回休み



居宅ケアマネさんのつぶやき



障害支援相談員さんのつぶやき



# 居宅介護支援事業所と障害相談支援事業所との連携事業について

## ①地域における現状と個別課題

- 札幌市北区の人口；北区28万人（高齢者人口7.7万人）
- 居宅介護支援事業所数：62箇所
- 障害相談支援事業所数：20箇所

## ②それぞれの立場からの声

- 地域住民：「65歳になり介護保険に移行したが、なぜ支援内容が変わるのか？」
- 居宅介護支援事業所：「65歳になり障害から介護サービスに移行したが、制度の違いに戸惑っている」「高齢者が障害のサービスを併用するにはどうすればよいのか？」
- 障害相談支援事業所：「介護部門から障害部門へ異動したが、用語も違うし、費用の算定方法も違う。障害と介護分野がお互いを知らなさすぎと感じている。」
- 地域包括支援センター「家庭内で高齢と障害それぞれ課題を抱えるケースが増えており、共同して支援をする必要性を感じている」

### ③ねらいと期待される効果

- ・ねらい：介護障害分野の専門職がお互いの制度を理解し、互いに顔の見える関係性を築くことで、住み慣れた地域での生活を継続し切れ目のない支援を地域住民に対して行うことができる。

- ・期待される効果

- 65歳時の障害から介護保険移行時に対象者の支援が適切に行われる

- 高齢者、障害者それぞれの必要とする支援を支援者が理解し、フォーマル、インフォーマルサービスが適切に活用される

- 家庭内で抱える障害と介護の複合的課題に対して新たな支援機関の役割を理解し活用することができる。

- どこの事業所にどんな人がいて、わからないことがあれば気軽に相談できる

## ④取り組み内容

- ・ネットワークメンバーによる協議  
エリア内居宅介護支援事業所の介護支援専門員、障害相談支援事業所と協議を実施。お互いの連携を深めるための計画を立案

→介護支援専門員、障害支援相談員、地域包括支援センター職員が参加する研修会を開催する

- ・ネットワークのメンバー構成  
エリア内居宅介護支援事業所：主任介護支援専門員5名

北区・西区障害相談支援事業所：2名

北区第3地域包括支援センター：主任介護支援専門員3名

## ④取り組み内容

- 研修会の開催

○H30年度：居宅介護支援事業所、障害相談支援事業所、  
地域包括支援センターの職員にて研修会を開催。

研修内容：「地域包括ケアや共生社会を学ぶ」

「それぞれの制度のサービスの種類や算定方法の違い」

「介護支援専門員や障害支援相談員の役割について

「65歳時の制度切り替え時についてそれぞれができること」

出席者数：居宅介護支援事業所と地域包括支援センター：80名

障害相談支援事業所：2名

## ④取り組み内容

研修会の成果と反省点：

- 成果～研修後、障害支援相談員と地域包括支援センター、居宅介護支援事業所の間で、ケースの相談を行う機会や、一緒にケースの訪問を行うことが増えお互いの支援の選択肢が増えた。

- 反省点～障害相談支援事業所は夜間のモニタリングも多いことから、参加者増加を目指すためには、3か月以上前に周知が必要であることがわかった。

- 次回の改善点～具体的な個別事例の検討を行うことで、共通課題の理解や新たな視点を学ぶことができたので、次回は8050問題等の同一世帯で複数の課題を抱える事例の検討を行う

- 医療や福祉の社会資源を多く共有している東区にも周知を実施する

## ④取り組み内容

○令和1年度：第二回目の研修を同職種を対象に開催※北区以外に東区にも周知拡大

内容：「それぞれの制度やサービスの違いを学ぶ」  
「8050ケース事例検討。世帯内の課題重複ケース」  
（認知症、難病、発達障害）  
「お互いの役割分担や新たな支援方針の検討」

申込者数：居宅介護支援事業所と地域包括支援センター：100名  
障害相談支援事業所：20名



コロナ禍のため中止

## ⑤成果

### 成果と課題

- 成果～コロナ禍により開催中止となったが、申し込み段階で介護支援専門員100名 障害支援相談員20名申し込みがあり、関心の高さを確認できた。
- 企画段階から他区の障害支援相談員にも企画会議に参加いただき、障害分野と高齢分野の情報交換の場となった。



## ⑥全体的な課題と次年度以降の取り組み

- 課題

- 担い手不足や離職問題
- 難病患者等の受け入れ態勢
- 夜間のモニタリング訪問等も多い
- 研修の開催時間帯（日中もしくは夜間）
- 事業の周知は3か月以上前から

- 次年度以降の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて、安全な研修の開催方法を検討

- リモート方式○会場分散方式等

研修会のような集う場以外での交流方法や、顔の見える関係づくりの方法を検討する

- 包括として個別ケースにおけるお互いを繋げる役割
- 互いに困難性が高いと感じている事柄に焦点を当てる

作成：北区第3地域包括支援センター 島崎